

- 将来を担う人が育つまちをつくる
- 安心して生活できるまちをつくる
- 賑わいのあるまちをつくる
- 暮らしやすいまちをつくる



発行 ● 町田市 編集 ● 政策経営部広報課  
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22  
市役所の代表電話 ● 042-722-3111  
市役所の窓口受付時間 ● 午前8時30分～午後5時  
ホームページ ● <http://www.city.machida.tokyo.jp/>

町田市  
ホームページ



今号の紙面から ●4面 会計年度任用職員募集 ●6・7面 税の申告受付が始まります

昨年10月に発生した令和元年台風第19号は、日本各地で甚大な被害を及ぼしました。町田市内でも土砂災害等が発生し、約3000人が避難施設へ避難しました。

この台風が接近した日、市内で避難施設開設に携わった2人の方に、当時の様子についてお話を伺いました。

危機のときこそ  
みんなで  
助け合う



町田第五小学校 校長 五十嵐俊子氏

この日は、「いざというときに自分の命を守ること、仲間と助け合って過ごすこと」をねらいとして、防災教育の取り組みである4年生の避難所宿泊訓練を予定していました。ところが、夕方に町田市全域に避難準備・高齢者避難開始が発令され、訓練は中止し、本校は本物の避難施設となりました。本校は、今までも避難施設になったことはありましたが、宿泊者が出たのは初めてでした。結果的には高齢の方や赤ちゃん連れのご家族など、71の方が宿泊されましたが、「いざとなったら来ます」と様子を見に来られた方を含めるともっとたくさんの方が来られました。

市の避難施設対応職員が奔走している姿を見て、避難していた大学生にエアマットの空気入れを頼みました。すると気持ち良く引き受けてくれ、周りにいた方々も「何かやれることはありませんか」と、次々に手伝いの輪が広がりました。外国の方が避難しに来られたときも、受け付けで英語がうまく伝わらずに困っていると、その様子を見ていた方が「任せて」と英語で話してくださいました。その後、外国の方も「手伝いますよ」と言ってくれて嬉しかったですね。

また、警察の方が夜通し何度も様子を見に来てくださるなど、多くの方に支えられていると感じました。学生や地域の方、外国の方などさまざまな立場の方が協力し合っていて、避難施設内は、常に温かい雰囲気包まれていました。私自身も避難施設運営に携わり、危機のときこそみんなで助け合う必要性を改めて感じました。

### ——現状を良くするために、自分はどう動くかを意識する

台風は進路が予測できるので事前の準備ができましたが、地震は突然起きます。また、避難生活が長期化すれば新たな問題が発生する可能性もあります。今回のような助け合いの雰囲気を つくるには、避難者の寛容・協力や一人ひとりの当事者意識が重要だと思います。

# 防 災

——いざというとき自分で守る みんなで守る——

## ボランティア

阪神淡路大震災発生後、国内外から多くのボランティアが駆け付けました。このとき、被災地のニーズに対応する活動が行われ、共助による防災活動の原点となりました。そして、阪神淡路大震災が発生した1月17日は「防災とボランティアの日」、1月15日、21日は「防災とボランティア週間」と定められました。

問 防災課 ☎724・2107

● 防災ボランティア  
救援活動に限らず、復旧・復興の取り組み、平常時の予防や訓練、防災意識の啓発など、さまざまな参加の仕方があります。施設で避難者同士が助け合う、隣近所に声を掛けて安否確認をする等、一人ひとりが自分にできることを誰かのためにすることもまたボランティアの一つです。

### 災害時におけるボランティア活動

町田ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する情報の提供や活動先の紹介、相談事業を行っています。大規模災害時には、町田市地域防災計画に基づき、被災地域が早期に復旧・復興できるように市内外から駆け付けるボランティアと市内でボランティアを必要とする方を結ぶ災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災者・被災地への支援を行います。

問 町田ボランティアセンター ☎725・4465  
町田市福祉総務課 ☎724・2133

### 災害ボランティアセンターが設置された場合はこんな活動を行います

- 在宅者の安否確認
- 支援物資の仕分けや配送
- 避難施設の運営支援
- 被災家屋の片付けや引っ越しの支援
- 子どもの遊び相手、学習支援

